

第4弾完成！！

小豆島プロジェクト活動報告

しそとこHAZY編

文責
西園寺朱梨

学生が携わる

茨木×小豆島

コラボビール

今年で4年目となるコラボビール企画から新たなビールが誕生した。その名も、しそとこHAZYだ。11月16日の農業祭から販売を開始。2023年小豆島プロジェクトに加入した6期生メンバーが初めてかかわったビールになった。昨年のしそとこサワーと同様、32kgの赤しそを使用している。そのため、赤しその風味や色を楽しんでもらえるビールになっている。

新たな魅力

歴代と異なる点として、ビールの種類が挙げられる。HAZY(ヘイジー)という種類はフルーティーで甘めな味に加えビール自体が少し濁っているという特徴があり、歴代のビールとの違いも楽しんでいただけのポイントである。名前の由来としては、先輩方からの継承の意味として「しそとこ」の部分を残しつつ、使用したビールの種類を名前に入れることで、今年のビールの新しさを表現した。

ラベルの原案やポスターデザインを学生が考えている。ポスターでは、HAZYを擬人化させ、仕込みで体験した情景、このコラボビールの説明や姉妹都市のことを伝えている。思いを伝えられるものになる様にこだわりの持ったデザインを考えている。この年は姉妹都市提携35周年という記念すべき年であった。

茨木と小豆島から特別なクラフトビール

ド、ド、ドという楽しい音を島全体に響かせてながら寒さを粉砕し、「シュウマイか!」と思うほど温かい暖かい作業場の中で、赤しそを絞り、名前を考えて、ラベルに想いを詰め込んでいると、気づけば、外の空気が南風に吹かれているような涼しい季節に、ついに、4年目のコラボクラフトビールは完成しました。コラボクラフトビールの役割は茨木と小豆島を繋ぐこと。2つの地域は、姉妹都市という特別な関係で結ばれています。このビールは、茨木の見山の郷の赤しそを使用しているため綺麗な色をしています。粒を開けた瞬間、ホップの甘い香りと赤しその香りがふわり、飲むと優しい気持ちになれるような柔らかいクラフトビールに仕上がりました。このポスターをここまで読んで、そこにあなただけのドキドキ、ワクワクが止まらないのではないですか。大丈夫です。僕はあなたに飲んでもらうことが本望です。

2023年 茨木市と小豆島市は姉妹都市提携35周年を迎えます

僕の名前は『しそとこHAZY』

追手門学院大学「茨木×小豆島プロジェクト」×茨木市「赤しそ」×小豆島「まめまめ」



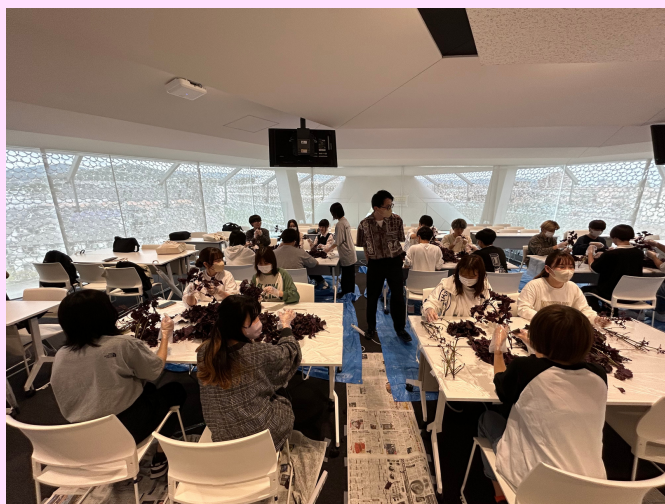
2023年度の ポスター・ラベル

完成まですべてに学生参加

しそちぎり

ワークショップ編

2023年6月22日、追手門学院大学総持寺キャンパスにて、小豆島プロジェクト主催のしそちぎりワークショップを開催した。このワークショップでは、ビールに使用する見山の郷の赤しそを枝から離す作業をみんなでお話をしながら行っている。プロジェクトメンバー以外の学生もたくさん参加してくださった。参加してくれた学生の学部も様々だった。そのため、学部など関係なく交流できる場といえるだろう。加えて、この活動や姉妹都市について知ってもらう機会になる。茨木市見山の郷から大学へ。そして、大学で学生たちがちぎったしそは小豆島へ、ビールの完成に向けてつながっていく。



ワークショップの様子

小豆島仕込み編

9月19・20日に小豆島のビール醸造家「まめまめびーる」を訪れた。毎年、プロジェクトメンバーは仕込み作業のお手伝いをしている。内容は麦芽の粉碎、赤しそをゆでたものを絞る、お湯をかける、混ぜるなどの学生ができることを体験させていただいた。



仕込みをしている様子

手作業で行っていたり、全く知らなかったビールの製造過程などを知った。そして、経験したことにより暑い中での作業などビール製造の大変さやビールへのこだわりを感じた。

思いを込めたビールが届く瞬間

11月26日にイオンタウン茨木太田店で、コラボビールの販売を行った。新メンバー加入後初となるイベントの開催となったこのイベントは、直接、購入された方と交流を持てる貴重な機会となった。実際に購入された方々はお土産として購入されるなど様々な理由だった。ブラックフライデーとも重なり多くの人に認知できたと考えている。瓶の栓をして販売を行ったため、このビールの特徴である色・においを口頭で伝えなければいけなかったのは、難しい点であった。なので、次回栓をして販売する際は、どのようにしたら特徴をわかりやすく伝えることができるかを考えて、開催を実施したい。



イオンタウン茨木太田店でのイベント

この1年、初めてのことの連続だった。そんな中で、担当の企画が決まり、不安もあった。でも、周りの方々の支えにより出来た「ラベルがついたビール」を初めて見たときの感動はとても大きかった。周りの支えに感謝しながら、私も役に立てるように頑張りたいと思った。今までの活動からプロジェクトやビールについて知ってくださっている方やイベントで知って興味を持ってくださる方がいる。そういった方を増やしていきたいように今あるつながりを大切にしながら活動していきたい。今後はビールを置いていただけの店舗の拡大や、イベントへの参加ができるように、認知度の向上に努めていきたいと考えている。

編集後記